



令和4年1月31日(月)
練馬区立開進第四小学校
校長 河崎 晃二

開四小だより

2月号

コロナ禍における「安全のABC」

校長 河崎 晃二

1月は「いく」2月は「にげる」3月は「さる」と、よく言われていますが、あっという間に2月の声を聞くようになってしまいました。立春も間近になり、光の春と言われるように、日差しが少しずつ目にまぶしく暖かく感じられるようになってきました。校庭の木々の芽も膨らみはじめ、開花の機会を待ち望んでいるようです。

※

さて、表題の「安全のABC」は、先輩の校長先生から教わったもので、内容は以下の通りです。大田区の小学校に出かけたとき、その学校の近くにある工場の壁に、大きな文字で「ABC」と書いてありました。「何だろう。」と思い、出かけた先の校長先生に尋ねると、次のような話をしてくださいました。

この工場は危険な薬品を扱う工場なので、絶対に事故を起こさないように合い言葉として、「ABC」を決めたそうです。

安全は、A（当たり前のことを） B（ぼんやりしないで・ばかにしないで） C（ちゃんとやる）
ことによって守られる。

という意味で、「ABC」は、その頭文字であることが分かりました。つまり「危険防止のABC」だったわけです。工場での仕事は、ちょっとした不注意でも大きな事故につながります。そこで、社内で働く人全員が、毎日この文字を見て注意しているそうです。そのお陰で、この会社は創立以来何十年も大きな事故がないとのことでした。

この合い言葉は、この会社だけでなく、私たちの日々の生活においても注意すべき大切なことではないかと思います。特に新型コロナウイルス感染症の予防や感染症拡大防止に向けて、しっかりと実行していく必要があるかと思います。

A：当たり前のことを

「マスクをしっかりと着用する・マスクを外したらしゃべらない・うがい、手洗い・部屋の換気」
「自分や家族が発熱の時や具合の悪い場合は、外出せずに家で休む・医師の診断を受ける」等

B：ぼんやりしないで（ばかにしないで）

C：ちゃんとやる

これだけ感染症が長い期間続くと「このくらいなら大丈夫」と思いがちになってしまいます。今一度気持ちを引き締めて、この「ABC」をみんなで確実に実践していきましょう。

また、この「ABC」は、危険防止という意味だけでなく、多くの人とかかわる社会生活においても、しっかりと心に留めておく必要があることだと思っています。「学校生活のABC」「家庭生活のABC」「教師のABC」「保護者のABC」のように、「～のABC」として挙げれば、いろいろな場面で広い範囲から狭い範囲のものまで数限りなく考えられます。私たち大人は、この「ABC」を子供たちにきちんと指導できる存在でありたいものです。